

目 次

巻 頭 言	市川 哲雄
高田充歯科基礎医学奨励賞 受賞講演	
エナメル質形成不全症の新規責任遺伝子変異の発見とその意義 -転写因子 <i>Sp6</i> をめぐるパズル-	三好 圭子 1
西野瑞穂歯科臨床医学奨励賞 受賞講演	
主機能部位と補綴治療	後藤 崇晴 11
症例報告	
上下顎同時移動術により下顔面高の過大を改善した骨格性下顎前突症例	長岡 敬子, 田中 栄二 17
学位論文	
機能水の補綴歯科領域への応用	柏原 稔也
咬合接触域近傍の顎運動が欠如した状態での全運動軸推定法の検討	板東 伸幸
臼歯部インプラント頰側の歯槽骨および軟組織の形態変化 ~前向き臨床研究~	詫間 俊夫
ラット骨芽細胞の分化発現に及ぼす最終糖化産物とリポ多糖の影響	坂本英次郎
イグサの歯科応用に関する基礎的研究	星野 由美
RNA 干渉法による創傷治癒促進・瘢痕形成抑制効果の検討	米田 尚子
生体防御における小胞体ストレス応答伝達タンパク質 ATF6 の役割	高原 一菜
Morphological and Metabolic Analyses of the Tongue Papillae and Mucosa in the Developing Rat Dalkhsuren Shine-Od	

目 次

巻頭言	松尾 敬志	
教授就任総説		
象牙芽細胞の分化と細胞外基質	岩本 勉	23
MRI に適合する医療用金合金の開発	濱田 賢一	29
原著論文		
いわゆる病病連携が奏功した障害者に対する集学的歯科治療について	桃田 幸弘, 可児 耕一, 高野 栄之, 高石 和美, 中川 弘 富岡 重正, 郡 由紀子, 橋本 俊顕, 北畑 洋, 東 雅之	35
顎顔面領域における骨治療に対する低出力超音波パルス照射の使用経験	藤原 慎視, 中村 竜也, 永田久美子, 桂 智子, 塩田 智子 堀内 信也, 黒田 晋吾, 清家 卓也, 橋本 一郎, 中西 秀樹 永井 宏和, 宮本 洋二, 田中 栄二	41
基礎系教育講演		
細胞賦活効果を狙ったチタン表面処理法	関根 一光	49
臨床指導講演		
象牙質知覚過敏症の病態と治療法	菅 俊行	55
見逃さないでその症状! -悪性病変の可能性はありませんか?-	菅原千恵子, 河野 文昭	61
活動報告		
広島大学歯学部臨床実習視察報告	大石 慶二, 竹内 久裕, 松尾 敬志, 吉本 勝彦, 市川 哲雄	71
日本大学松戸歯学部臨床実習視察報告	菅 俊行, 野口 直人, 松尾 敬志, 吉本 勝彦, 市川 哲雄	81
四国歯学会例会報告		91
会務報告		96
会 則		99
投稿規定		102

四国歯学会第42回例会 記 録

プログラム

日時：2013年3月28日（木）16：25より

会場：徳島大学歯学部大講義室（4階）

16：25 開会の辞 市川 哲雄 会長

教授就任講演

座 長 市川 哲雄

16：30～17：00

口腔顔面痛の疼痛伝達メカニズムと新規治療法の開発
知覚神経節細胞からの神経伝達物質の遊離

○松香 芳三

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
咬合管理学分野

17：00～17：30

N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体と難治性疾患
—その意義と将来展望—

○吉村 弘

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔分子生理学分野

基礎系教育講演

座 長 石丸 直澄

17：30～18：00

ホルモンとがん

○吉本 勝彦

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子薬理学分野

臨床指導講演

座 長 松香 芳三

18：00～18：20

象牙質知覚過敏症の病態と治療法

○菅 俊行

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科保存学分野

18：20～18：40

局所麻酔薬アレルギー疑いのある患者への対応

○江口 覚

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科麻酔科学分野

視察報告

座 長 吉本 勝彦

18：40～18：50

広島大学臨床実習視察報告

○大石 慶二¹、竹内 久裕²

松尾 敬志³、吉本 勝彦⁴

市川 哲雄⁵

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯周歯内治療学分野

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
咬合管理学分野

³徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科保存学分野

⁴徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子薬理学分野

⁵徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

18：50～19：00

日本大学松戸歯学部臨床実習視察報告

○菅 俊行¹、野口 直人²

松尾 敬志¹、吉本 勝彦³

市川 哲雄⁴

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科保存学分野

²徳島大学病院総合歯科診療部

³徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子薬理学分野

⁴徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

19：00 閉会の辞 河野 文昭 副会長

注意事項

- 教授就任講演は講演時間30分とします。
- 基礎系教育講演は講演時間20分、討論時間10分とします。
- 臨床指導講演は講演時間15分、討論時間5分とします。
- 視察報告は発表時間8分、討論時間2分とします。
- 講演、発表方法について
 - ・発表は液晶プロジェクター、単写とします。
 - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成してください。
 - ・コンピューター（Windows PCとMac）は発表者が御用意ください。
 - ・前日の3月27日（水）16：00～18：00の間に、動作確認を行ってください。
- 講演、発表後に400字程度の抄録をメール（kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp）にご送付ください。（教授就任講演は必要ありません）

第42回例会 基礎系教育講演・臨床指導講演 視察報告

ホルモンとがん

○吉本 勝彦

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子薬理学分野

遺伝性に内分泌腫瘍をきたす疾患のうち、口腔領域に関連がある家族性成長ホルモン（GH）産生腺腫と副甲状腺機能亢進症－顎腫瘍症候群（HPT-JT）について解説する。

家族性GH産生腺腫は11q13領域に位値するAIPが原因遺伝子であり、家族性GH産生腺腫家系の40%に変異が認められる。80%の症例が30歳前までに診断され、巨人症を示す症例が40%を占める。AIP変異を有する腺腫は、大きく、鞍外進展を示すものが多い。

HPT-JTの原因遺伝子は1q31.2に位置するCDC73遺伝子である。HPT-JTに伴う副甲状腺腫瘍は癌や異型性あるいは嚢胞性変化を示す腺腫が多い。30%の患者に上顎あるいは下顎の骨形成性線維腫を認める。CDC73遺伝子の遺伝子産物であるparafibrominは、本来は癌抑制蛋白として作用するが、状況によっては細胞増殖促進作用を示す。

象牙質知覚過敏症の病態と治療法

○菅 俊行

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科保存学分野

象牙質知覚過敏症は象牙質の露出に続いて象牙細管が開くことにより発症する疾患であり、齶蝕や歯周病とともに発症頻度の高い疾患である。歯痛の発症メカニズムとしては、象牙細管が開くし、象牙細管内に存在する象牙細管内液が移動することにより生じるとされる動水力学説が有力であるが、未だ不明な点も多く、すべて解明されているとは言い難いのが現状である。本発表では、歯の痛みを誘発する象牙細管内液の移動について述べるとともに、ブラークコントロール状態が象牙質知覚過敏症の病態に及ぼす影響について、イヌ生活歯を用いてin vivoで評価した結果を提示する。

次に、象牙質知覚過敏症の治療法としては、主に開口象牙細管の封鎖を目的としているが、完治しない症例もある。現在は多種多様な象牙質知覚過敏治療剤が販売されており混沌とした状態であり、薬剤選択に戸惑うかも

しれない。したがって、代表的な象牙質知覚過敏治療剤の象牙細管封鎖能についても電子顕微鏡により評価した結果を提示する。

局所麻酔薬アレルギー疑いのある患者への対応

○江口 覚

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科麻酔科学分野

歯科用局所麻酔薬のアレルギーはきわめて少なく、多くは心因性反応や血管収縮薬の反応である。局所麻酔後に何らかの異常反応があると、アレルギー学的な根拠がなくても局所麻酔薬にアレルギーの疑いがあると診断される症例が少なくないが、問診による詳しい既往歴および経過でおおよその鑑別が可能である。局所麻酔薬アレルギーは、皮膚テストなどの検査で確定することは難しいが、実際に使用する局所麻酔薬を用いたチャレンジテストにより、その局所麻酔薬の使用可否を確認でき、患者は将来的にも局所麻酔薬の恩恵を受けことができる。また、歯科治療で用いるラテックス製品、金属、薬剤等によるアレルギーの可能性も考慮する必要がある。局所麻酔薬添加成分（ピロ亜硫酸Na、パラベン）、根管貼薬成分のホルマリン等は、治療以前に感作されていることが少なくないと考えられ、こうした成分に対するアレルギーにも嚴重な配慮が必要と考えられる。

広島大学臨床実習視察報告

○大石 慶二¹、竹内 久裕²

松尾 敬志³、吉本 勝彦⁴
市川 哲雄⁵

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯周歯内治療学分野

²徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
咬合管理学分野

³徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯科保存学分野

⁴徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子薬理学分野

⁵徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

近年、学生自ら臨床に携わる診療参加型臨床実習が重要視されている。他大学での現状や取組みを知るため、平成25年2月22日に広島大学病院歯科を訪問し、臨床実習見学を行った。同校の臨床実習の特徴としては、1) 学生が自ら予定を立てて各診療科の実習に参加するシス

テムであること, 2) 各科の到達目標と実習の進捗状況から毎月自己目標を設定すること, 3) 学生は小グループ単位で実習を進め, 2週間に一度のミーティングではグループチューター(教員)が進捗状況の確認と目標設定をサポートすること, 4) 実習期間を3期に分割し, 段階的教育と評価をおこなっていること, 5) 毎日, 朝礼とミニレクチャーを開催していること, などが挙げられる。また, 実習に協力する患者からは書面で同意を得ていた。しかし, 協力患者はやはり不足しているとのことで, 症例を小グループ内で共有することも行われていた。今後, 本学の臨床実習改善の参考としたい。

日本大学松戸歯学部臨床実習視察報告

○菅 俊行¹, 野口 直人²
 松尾 敬志¹, 吉本 勝彦³
 市川 哲雄⁴

¹徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 歯科保存学分野

²徳島大学病院総合歯科診療部

³徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 分子薬理学分野

⁴徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 口腔顎顔面補綴学分野

平成25年2月15日に日大松戸歯学部の臨床実習視察を行い, 本学の臨床実習に役立つ情報を収集した。臨床実習は5年次4月に始まり, 最初の一か月間は6年生とペアを組んで配当患者の引き継ぎを行うペアポリ実習を行っている。一学生あたりの配当患者数は約20名である。学生診療室はなく, ローテート表に従い, 各科をローテートして実習を行っており, その中で配当患者の治療の一部を担当している。また5年次後期には臨床能力到達試験(OSCAT)が行われており, 医療面接, CR充填, 根管治療, SRP, 筋圧形成, 抜歯, バイタルサインなどが4分から20分間の試験時間で実施されている。実技試験で評価が困難な科は症例分析, 治療計画立案などの課題を筆記試験で行っている。本学でも臨床実習後の実技評価試験導入に向けて検討を行っており, 参考になると考えられた。臨床実習は6年次の6月まで行い, その後は12月のMCQ形式の卒業試験まで座学中心となる。

四国歯学会 第43回例会・第32回総会 記 録

プログラム

日時: 2013年6月27日(木) 16:25より

会場: 徳島大学歯学部大講義室(4階)

16:25 開会の辞 市川 哲雄 会長

16:30~17:00 総会

教授就任講演

座長 市川 哲雄

17:00~17:30

象牙芽細胞におけるギャップ結合分子 Pannexin3の役割

○岩本 勉

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

小児歯科学分野

17:30~18:00

歯科理工学から生体材料工学へ

○浜田 賢一

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

生体材料工学分野

基礎系教育講演

座長 弘田 克彦

18:00~18:30

細胞賦活効果を狙ったチタン表面処理法

○関根 一光

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

生体材料工学分野

臨床指導講演

座長 桃田 幸弘

18:30~18:50

侵襲性歯周炎の病態と治療

○二宮 雅美

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

歯周歯内治療学分野

18:50~19:10

見逃さないでその症状!

(悪性病変の可能性はありませんか?)

○菅原千恵子

徳島大学病院高次歯科診療部

総合診療歯科学

一般演題

座長 弘田 克彦

19:10~19:25

警察歯科医会について

○安田 勝裕, 早雲 謙二

齋賀 洋二, 齋賀 明彦

日下 淳, 福井 一裕

徳島県歯科医師会・警察歯科医会

19:25~19:40

インドネシア歯学部見学及び学生との交流活動報告

○青木 理紗, 武田智香子

宮地 宏幸, 村重 仁崇

徳島大学歯学部6年次生

19:50 閉会の辞 野間 隆文 副学部長

注意事項

- 教授就任講演は講演時間30分とします。
- 基礎系教育講演は講演時間20分, 討論時間10分とします。
- 臨床指導講演は講演時間15分, 討論時間5分とします。
- 講演, 発表方法について
 - ・発表は液晶プロジェクター, 単写とします。
 - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成してください。
 - ・コンピューター(Windows PCとMac)は発表者が御用意ください。
 - ・前日の6月26日(水)16:00~18:00の間に, 動作確認を行ってください。
- 講演, 発表後に400字程度の抄録をメール(kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp)にご送付ください。(教授就任講演は必要ありません)

第43回例会

基礎系教育講演・臨床指導講演
一般講演抄録

細胞賦活効果を狙ったチタン表面処理法

○関根 一光

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
生体材料工学分野

チタンの生体親和性を軸とした生体内埋込材料やデバイスには歯科のみに限らず, 多くの医療領域において使用されているが, 血液接触表面材料としての現状は, 異物反応による微小血栓形成や血栓沈滞などの問題がある。そこでチタンの多孔質表面作成による scaffold 化と, 過酸化水素処理によるチタンのゲル化表面を利用した細胞増殖因子固定による, 複合的細胞賦活効果を備えた機能性表面の作成と評価をおこなった。

チタン多孔体は, 熱可塑性樹脂混合合法とセラミクス混合合法の2通りの方法でおこない, 内皮細胞誘導と組織化を目的とした孔径, 孔率での作成をおこない, また適切な機械的強度を確認した。

また増殖因子固定は, 過酸化水素処理によるゲル化と type I コラーゲンのウレタン化固定により, 未処理試料と比較してコラーゲン固定量の増大を確認した。

以上を複合的に処理した際においても, チタン多孔体の表面積増大によってコラーゲン固定量は相乗的に増加し, 様々な用途と適切な増殖因子の選択により, 機能性チタン表面としての応用性を示唆するものであった。

侵襲性歯周炎の病態と治療

○二宮 雅美

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
歯周歯内治療学分野

侵襲性歯周炎は, 若年者において急速な歯周組織破壊と家族内発現を認めることを特徴とする歯周炎で, プラークの付着量と重症度に相関を認めず, 特異性菌の関与や宿主側のリスク因子の存在が考えられる疾患である。そのため, 歯周病原細菌検査や細菌に対する血清抗体価の評価を行い, 一般的な歯周治療である機械的デブリメントに加えて抗菌療法を併用し, できるだけ速やかに治療を進めていくことが重要である。

今回, 姉妹に認められた広汎型侵襲性歯周炎の症例を提示した。X線所見で, 妹(32歳)は全顎的に歯根長2/3以上の重度の骨吸収を認め, 姉(35歳)は1/2程度の中等度の骨吸収を認めた。妹のほうが重度に進行していた理由は喫煙の影響によると思われる。治療として, 歯周病原細菌検査や血清抗体価の評価を行いながら, 経口抗菌薬を併用した歯周基本治療と全顎Fopを行った。その結果, 細菌学的に菌数の減少が認められ, 姉妹ともに歯肉の炎症や歯周ポケットが顕著に改善し, 歯周組織の回復所見が認められた。また, 歯周状態の改善によってコンプレックスが改善され, 患者のメンタル面にも良い影響を与えている。

見逃さないでその症状！ (悪性病変の可能性はありませんか?)

○菅原千恵子

徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部
健康長寿歯科学講座総合診療歯科学

日々の画像診断業務のなかで、一見歯科関連の主訴でありながら、実は他科で治療すべき悪性疾患の患者に遭遇することが少なからずある。診断から治療にいたるまでには、医療面接から始まり適切な検査を行うことで診断に至り加療が開始される。歯科領域の初発症状により悪性疾患の加療が始まる可能性も十分あることを認識しつつ、日々の診療を行う必要がある。

患者の主訴として“しびれる”“腫れる”“口が開かない”“舌が大きくなる”を取り上げた。下歯槽神経麻痺は医学教育では悪性疾患の症候と認識されている。供覧症例として悪性リンパ腫と前立腺癌の下顎骨転移をあげた。“腫れる”については、口蓋と頸部腫脹を取り上げた。口蓋部では唾液腺腫瘍のみならず悪性リンパ腫によるものも見過ごされてはならない。頸部腫脹は多くは菌性のリンパ節炎を考えるが、悪性リンパ腫によるものと食道癌の頸部リンパ節転移の症例を供覧した。“口が開かない”では、三叉神経走行領域に発生する咽頭部の未分化癌と腺様嚢胞癌の症例を供覧し、顎関節症の思い込みの危険を提言した。“舌が大きくなる”では骨髄腫に起因するアミロイドーシスという状態を供覧した。

警察歯科医とは

○安田 勝裕¹、早雲 謙二¹
斎賀 洋二¹、斎賀 明彦¹
日下 淳¹、福井 一裕¹
西村 明儒²、石上安希子²

¹徳島県歯科医師会・警察歯科医会

²徳島大学感覚運動系病態医学講座法医学分野

一昨年の、東日本大震災時は、徳島県警察歯科医会は人員を派遣し、遺体の身元確認作業に参加しました。歯科医師会の行っている警察歯科医の歴史と活動を紹介します。徳島大学の先生方に南海大地震の発生した際、ご協力をいただければと考え、発表しました。

歴史は、1985年日航機墜落事故にさかのぼります。この時群馬県警察歯科医会が活躍、歯牙所見により40.8%の身元が確認されました。その後、全国警察歯科医会として年一回大会があり来年8月は徳島で行われます。

東日本大震災時の活動の概略を説明しました。身元確認時は、口腔内所見の採取、口腔内写真撮影、エックス線撮影、デンタルチャートの作成が必須であります。追

加で必要に応じ印象採得などが行われます。これらを順に説明いたしました。宮城県においてはDNAでの身元判明が1%だったのに対し、歯牙所見は9.5%の身元判明に役立っていました。

徳島大学の先生方が、大規模災害時に人員派遣していただくと同時に、今年度徳島で行われる災害コーディネーター研修や来年度の警察歯科医会全国大会にご参加いただけることを願っています。

インドネシア歯学部見学及び学生との交流活動報告

○青木 理紗、武田智香子
宮地 宏幸、村重 仁崇
徳島大学歯学部6年次生

2013年2月27日から3月3日までの5日間、歯学部学生としてインドネシアを訪れ、歯学部見学及び学生との交流活動を行ってきました。インドネシア共和国ムハマディア大学ジョグジャカルタ校歯学部及びガジャマダ大学歯学部と徳島大学との間で締結された大学間学術交流協定に基づき学生レベルでの交流を深めること、豊富な知識と国際感覚を備えた優秀な歯科医師の育成に資することを目的として、互いの国の文化や歯科の教育システムについてのプレゼンテーション、現地小学生へのTBI、障害者施設・歯科大学・病院・学生診療の見学などをさせていただきました。

参加させて頂いた学生は、インドネシアの歯科学生の研究に対する意識の高さや講義に対する積極的な姿勢に圧倒され、いかに自分たちに英語力(日常会話・歯科英語)がないか思い知らされる、などと4人それぞれが刺激をうけることができました。この経験を今後に生かしていきたいと考えています。

四国歯学会会務報告

第32回総会は平成25年6月27日(木)16時25分から歯学部大講義室(4F)にて開催された。市川哲雄会長の挨拶の後、松香理事を議長に選出して以下の報告及び協議がなされた。

報告事項

1. 庶務報告(田中理事)

- 1) 運営委員会の開催 平成24年度第2回 平成25年2月14日(木)
平成25年度第1回 平成25年5月27日(月)
- 2) 理事会の開催(第98回平成25年3月14日, 第99回平成25年6月13日)
- 3) 現在会員数(平成25年3月1日現在, 386名(学内222名 学外164名))
- 4) 退会会員数(平成25年3月1日現在, 学内14名 学外5名)
- 5) 楯・メダル現在残数(平成25年3月1日現在, 楯24個, メダル132個)
- 6) 新たな名誉会員として浅岡憲三名誉教授, 羽田勝名誉教授2名を報告した。

2. 学術報告(東理事)

第42回例会報告, 第43回例会・第32回総会の予定について

3. 編集報告(尾崎理事代理 田中理事)

- 1) 第25巻1, 2号の状況報告
- 2) 第26巻1号の状況報告
- 3) 学位申請に係る論文投稿に対する四国歯学会雑誌 編集担当の方針について確認した。

協議事項

1. 平成24年度(2012年度)会計決算報告及び監査報告

会計決算報告について, 日野出理事より説明があり, 北村理事より監査報告がなされた後, 決算は原案どおり承認された。

2. 平成25年度(2013年度)予算案

日野出理事より予算案の説明があり, 原案どおり承認された。

3. 平成25年度事業計画案

日野出理事より事業計画案の説明があり, 原案どおり承認された。

4. その他

1. 平成24年度(2012年度)決算

収 入			決 算 高	予 算 高	差 異
繰	越	金	9,599,936	9,599,936	
入	会	金	30,000	20,000	10,000
本	年	度	1,064,000	1,000,000	64,000
過	年	度	80,000	50,000	30,000
次	年	度	4,000	0	4,000
費	助	会	150,000	175,000	-25,000
過	年	度	50,000	50,000	0
論	文	掲	1,190,655	600,000	590,655
広	告	掲	260,000	300,000	-40,000
費	助	金	20,000	0	20,000
雜	収	入	61,148	30,000	31,148
小		計	2,909,803	2,225,000	684,803
合		計	12,509,739	11,824,936	684,803

支 出			決 算 高	予 算 高	差 異
学	会	開	61,350	250,000	-188,650
会	誌	印	1,911,997	1,600,000	311,997
通	信	連	63,240	100,000	-36,760
事	務	費	16,721	50,000	-33,279
事	務	委	50,000	200,000	-150,000
備	品	費	0	35,000	35,000
事	業	費	22,900	100,000	-77,100
国	際	交	97,132	650,000	-552,868
予	備	費	0	200,000	-200,000
支	出	合	2,223,340	3,185,000	-961,660
次	年	度	10,286,399	8,639,936	1,646,463
合		計	12,509,739	11,824,936	684,803

2. 平成25年度(2013年度)予算

収 入			予 算	支 出			予 算
前	年	度	10,286,399	学	会	開	450,000
入	会	金	20,000	会	誌	印	2,000,000
本	年	度	1,000,000	通	信	連	100,000
過	年	度	50,000	事	務	費	50,000
次	年	度	0	事	務	委	200,000
費	助	会	150,000	備	品	費	35,000
過	年	度	25,000	事	業	費	100,000
論	文	掲	600,000	国	際	交	220,000
広	告	掲	200,000	四	国	歯	380,000
費	助	金	20,000	予	備	費	50,000
雜	収	入	30,000	四	国	歯	5,000,000
合		計	12,381,399	支	出	合	8,585,000
				次	年	度	3,796,399
				合	計		12,381,399